

令和3年度事業報告

(自 令和3年4月1日～至 令和4年3月31日)

年月日	事業名	開催場所	摘 要
令3.4.26	分類部会	学士会館	<p>電気科学技術奨励賞分類部会を開催。</p> <p>出席者：日高邦彦会長、横山明彦理事長、及び、分類部会委員3名（磯敦夫氏、菅弘史郎氏、祖父江和夫氏）が出席。委員1名（秦利男氏）が欠席。</p> <p>議事：電気科学技術奨励賞の選考要領の一部改正について菅弘史郎氏が座長席につき、電気科学技術奨励賞の選考要領の一部改正（文部科学大臣賞の選出方法ほか）について検討を行った。</p> <p>議論の結果、以下の事項が決定された。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文部科学大臣賞の選出方法に関しては、運用細則「3.3項（2）」を、以下の文言に改正（修正）する。 「（2）各班の班序列1位の案件の中から委員会において、委員序列1位の数が最も多い案件を文部科学大臣賞とすることを原則とする。ただし、応募状況によっては、委員序列1位の数が多し複数の候補について、内容を吟味し、最終的には、審査委員会での議論によって決定する。」 2. 文部科学大臣賞の選出方法の修正に伴い、会長賞の選出方法も、一部修正する。具体的には、運用細則「3.3項（3）」の規定を、以下の文言に改正（修正）する。 「（3）委員序列1位の数が大臣賞の案件に次ぐ案件を会長賞とすることを原則とする。ただし、前項（2）により文部科学大臣賞を複数の候補の中から決定した場合は、会長賞についても審査委員会の議論によって決定する。」
令3.5.19	役員等候補者選出委員会	書面決議	<p>第3回役員等候補者選出委員会（令和3年6月期選出候補者選出）を開催（書面決議）。</p> <p>決議があったものとみなされた日：令和3年5月19日</p> <p>役員等候補者選出委員会委員4名全員による書面決議 （祖父江和夫氏、手島康博氏、早野敏美氏、持田二郎氏）</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、評議員会議長名にて書面決議とさせて頂く旨を全委員に提案し、5月12日付で評議員各候補者の資料を各委員にお送りして審査をお願いした。</p> <p>5月19日までに委員の全員から書面により審査結果が提出された。審査結果を集計した結果、評議員の候補者全員がそれぞれの役職にふさわしいとの判定がなされたことを確認した。</p> <p>この結果、当会定款（第22条、第41条）の評議員会、理事会の「決議の省略」規定を準用し、当該提案を可決する旨の役員等候補者選出委員会があったものとみなされた。</p> <p>〔評議員候補〕（五十音順） 中田智仁氏（三菱電機株式会社） 福田 守氏（株式会社 安川電機） 福山満由美氏（株式会社 日立製作所） 吉岡靖浩氏（株式会社 明電舎）</p>

<p>令 3. 6. 9</p>	<p>理事会 (第 1 回)</p>	<p>学士会館</p>	<p>令和 3 年度第 1 回理事会を開催。 出席者：理事総数 14 名中、出席理事 11 名（日高邦彦氏、坪井 裕氏、横山明彦氏、川上景一氏、寒川哲臣氏、高本 学氏、平栗健二氏、古澤 宏氏、村上和夫氏、吉野泰宏氏、松井利行氏） 欠席理事 3 名（梶原滋正氏、富岡義博氏、安田一成氏） 出席監事 2 名（仲田一元氏、八島恵子氏） 出席顧問 1 名（早野敏美氏）</p> <p>理事会議長として横山理事長が議長席につき、本理事会の議決は定足数（理事の過半数）を満たしていることを確認した。議事に先立ち、令和 2 年度第 4 回理事会（令和 3 年 3 月 4 日開催）の議事録を確認した。</p> <p>[議事]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 号議案 令和 2 年度事業報告（案）承認の件 令和 2 年度事業報告（案）を承認。 ・第 2 号議案 令和 2 年度計算書類等（案）承認の件 令和 2 年度計算書類等（案）を承認。 ・第 3 号議案 定時評議員会の招集の件 以下の定時評議員会招集を承認。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 日時：令和 3 年 6 月 24 日(木) 14:30～15:30 (2) 場所：学士会館 210 号室（東京都千代田区神田錦町 3-28） (3) 目的である事項等 <ol style="list-style-type: none"> i) 令和 2 年度事業報告承認の件 ii) 令和 2 年度計算書類等承認の件 iii) 役員等候補者選出委員会を踏まえての評議員選任の件 iv) 役員等候補者選出委員会委員選任の件 ・第 4 号議案 役員等候補者選出委員会による評議員推薦の件 第 3 回役員等候補者選出委員会審議による評議員候補 4 名の判定結果（令和 3 年 5 月 19 日、書面決議）について審議・了承された。 ・第 5 号議案 役員等候補者選出委員会委員選任の件 事務局より、役員等候補者選出委員会委員として、新たに、八島恵子氏に加わって頂くことが提案された。役員等候補者選出委員会は現在、4 名で構成されているが、これは、役員等候補者選出委員会規程で規定されている最小の委員構成であること、八島氏が加わることで委員の数が 5 名となり、不測の事態等への対応が可能になり、役員等候補者選出委員会のより確実な開催につながる旨を説明。 慎重審議の結果、全員異議なく承認した。
<p>令 3. 6. 24</p>	<p>評議員会</p>	<p>学士会館</p>	<p>令和 3 年度定時評議員会（令和 2 年度決算書類の承認）を開催。 出席者：評議員 18 名中、出席評議員 11 名（石田 明氏、太田光昭氏、沖谷 彰氏、北島尚史氏、堺 宏明氏、佐々木昭悟氏、軸屋尚久氏、篠原郁二氏、祖父江和夫氏、樋口達也氏、吉田 隆氏） 他に、当会監事・仲田一元氏が監査報告人、代表理事（会長）・日高邦彦氏、代表理事（理事長）・横山明彦氏がオブザーバーとして出席。 欠席評議員 7 名（大淵一央氏、佐藤 晃氏、秦 利男氏、松本袈裟文氏、三戸雅隆氏、向井 稔氏、安井和之氏）</p> <p>議長に祖父江和夫氏を選出する。本評議員会の議決は定足数（評議員の過半数）を満たしていることを確認した後、議事録署名人として、北島尚史氏、佐々木昭悟氏を指名した。</p>

議事に先立ち、令和2年度定時評議員会（令和2年6月24日開催）の議事録を確認した。

[議事]

・第1号議案 令和2年度事業報告承認の件

事務局から、令和2年度事業報告のポイント（第68回電気科学技術奨励賞の選定並びに贈呈式、第59回電気科学技術講演会）についてそれぞれ説明。その他の活動として、電気科学技術奨励賞 応募作分類部会を開催したほか、媒体の特長（Webサイトの迅速性、印刷媒体の品質・閲覧性）を活かした情報発信に努めたこと、さらに、賛助会員、寄附者への働きかけによって財源の確保を実現したことを報告。

慎重審議の結果、原案どおり承認された。

・第2号議案 令和2年度計算書類等承認の件

事務局から、令和2年度計算書類等を詳細に説明。仲田監事から監査報告及び所感を得る。

慎重審議の結果、全員異議なく承認した。

・第3号議案 役員等候補者選出委員会を踏まえての評議員選任の件

事務局から、令和3年度6月期の役員等の選任について、4名の新評議員候補者の推薦があり、役員等候補者選出委員会による審議が行われたことを報告。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、本委員会を、書面決議とさせて頂く旨を全役員等候補者選出委員会委員に提案し、評議員各候補者の資料を各委員にお送りして審査をお願いしたことを説明。5月19日までに、全委員から審査結果が事務局に提出され、集計の結果、評議員候補者全員が役職にふさわしいとの判定がなされたことを確認し、この結果、当会定款（第22条、第41条）の評議員会、理事会の「決議の省略」規定を準用し、役員等候補者選出委員会の決議があったものとみなされたことを報告。

適格と認められた新評議員候補は、以下のとおりである。

・新評議員候補者（50音順）

中田 智仁氏、福田 守氏、福山 満由美氏、吉岡 靖浩氏

慎重審議の結果、役員等候補者選出委員会による判定のとおり、全員異議なく承認した。

・第4号議案 役員等候補者選出委員会委員選任の件

事務局より、役員等候補者選出委員会委員として、新たに、八島恵子氏に加わって頂くことが提案された。役員等候補者選出委員会は現在、4名で構成されているが、これは、役員等候補者選出委員会規程で規定されている最小の委員構成であること、八島氏が加わることで委員の数が5名となり、不測の事態等への対応が可能になり、役員等候補者選出委員会のより確実な開催につながる旨を説明。

慎重審議の結果、全員異議なく承認した。

[報告事項]

i) 電気科学技術奨励賞選考要領の一部改正について

事務局から、電気科学技術奨励賞選考要領の一部改正の経緯、及び改正点について報告。電気科学技術奨励賞の審査は5分野（電力・エネルギー関係、産業・交通関係、家電・民生機器及びエレクトロニクス関係、情報・通信関係、教育関係）に分類して基礎審査が行われるが、分野によって応募作の数に差がある場合、現行の選考要領をそのまま適用すると、序列1位の数が多

			<p>い候補がそのまま文部科学大臣賞に決定となり、不公平が生じる可能性のあることが昨年の審査委員会で指摘されていた。</p> <p>この課題について、令和3年4月26日(月)開催の電気科学技術奨励賞分類部会で議論がなされた結果、現行の選考要領に、文部科学大臣賞の選出にあたって序列1位の数が絶対の基準ではなく、最終的に、議論によって決定する旨の文言を盛り込むこと、文部科学大臣賞の選出方法の修正に伴い、会長賞の選出方法にも一部修正を加えることが報告された。</p> <p>ii) 第59回電気科学技術講演会の開催について</p> <p>事務局から、第59回電気科学技術講演会の開催日が8月11日(水)に決定し、講演者も確定したことを報告。</p> <p>しかし、新型コロナウイルス感染症拡大のリスクは今年度も続いており、開催場所の東京大学の活動指針によれば、聴講者数(参加者数)を減らしても、本講演会を対面形式で行うには相当な困難が伴うこと、感染症拡大のリスクは今年度末になっても残るものと予想されるため、本講演会の開催日は予定どおり8月11日とし、対面なしの全面オンラインで開催することになった旨を報告。</p> <p>決定事項を以下に記す。</p> <p>[第59回電気科学技術講演会]</p> <p>日時：令和3年8月11日(水) 14:30~17:00</p> <p>会場：オンライン開催</p> <p>テーマ：AI技術の電力・エネルギー分野への応用</p> <p>講演者：堤 富士雄 氏(一般財団法人 電力中央研究所) 中田 安彦 氏(東京電力ホールディングス株式会社) 進 博正 氏(株式会社東芝)</p> <p>以上をもって議事を終了した。</p>
令3.7.7	分類部会	学士会館	<p>第69回電気科学技術奨励賞応募作分類部会を開催。</p> <p>出席者：日高邦彦会長、横山明彦理事長、及び、分類部会委員4名全員(磯敦夫氏、菅弘史郎氏、祖父江和夫氏、平栗健二氏)が出席。</p> <p>議事：第69回電気科学技術奨励賞応募作の分類分けについて</p> <p>菅弘史郎氏が座長席につき、第69回(令和3年度)電気科学技術奨励賞の応募作(受賞候補)49件(126名)の審査5分野(電力・エネルギー関係、産業・交通関係、家電・民生機器及びエレクトロニクス関係、情報・通信関係、教育関係)への分類分けについて審議した。</p> <p>受賞候補による希望分野、及び応募作の内容に基づき、応募作の審査分野を、それぞれ、電力・エネルギー関係12件、産業・交通関係13件、家電・民生機器及びエレクトロニクス関係7件、情報・通信関係12件、教育関係5件とすることで委員の意見が一致し、7月14日に開催される第1回審査委員会に提案することになった。</p>
令3.7.14	顕彰 (第69回奨励賞第1回審査委員会)	学士会館	<p>第69回電気科学技術奨励賞第1回審査委員会を開催。</p> <p>出席者：日高邦彦審査委員長、横山明彦審査副委員長、及び、審査委員20名中、出席委員14名(代理出席含む)。</p> <p>欠席委員6名。</p> <p>7月7日開催の分類部会による提案のとおり、応募作49件の審査分野を、電力・エネルギー関係12件、産業・交通関係13件、家電・民生機器及びエレクトロニクス関係7件、情報・通信関係12件、教育関係5件とするこ</p>

		<p>とが承認され、速やかに審査を開始することを決定した。</p> <p>審査委員 20 名（委員長、副委員長を除く）を 5 分野に分け、各委員は、それぞれ担当分野の書類審査（基礎審査）を行い、審査結果（基礎審査表）を 8 月 31 日までに事務局に提出することになった。</p>
--	--	--

<p>令 3. 8. 11</p>	<p>講演会</p>	<p>オンライン形式</p>	<p>「第 59 回電気科学技術講演会」を開催。テーマは『AI 技術の電力・エネルギー分野への応用』。</p> <p>第 59 回電気科学技術講演会は、令和元年度第 4 回理事会（令和 2 年 3 月 10 日）において承認されたが、新型コロナウイルス感染症拡大のリスクが続いたため、令和 2 年度の開催を見送り、令和 3 年度に改めて第 59 回の電気科学技術講演会を実施したものである。新型コロナウイルス感染症拡大のリスクが依然として続いていたため、感染症拡大防止の観点から、オンライン形式での開催となった。</p> <p>[主催] 公益財団法人 電気科学技術奨励会／東京大学大学院 工学系研究科 電気系工学専攻 先端電力エネルギー・環境技術教育研究 アライアンス (APET) (2 団体共催)</p> <p>[後援] 一般社団法人 電気学会、株式会社 オーム社</p> <p>[講演内容]</p> <p>○講演 1「電気事業における AI 活用の見取り図」 堤 富士雄 氏（一般財団法人 電力中央研究所 グリッドイノベーション研究本部 ENIC 部門長 博士（工学））</p> <p>○講演 2「東京電力における AI・IoT 活用の取組み ～電力流通部門の AI・IoT 研究開発及び活用事例～」 中田 安彦 氏（東京電力ホールディングス株式会社 経営技術戦略研究所 技術開発部 次世代電力インフラエリア、発電スマート O&M プロジェクトマネージャー）</p> <p>○講演 3「再生可能エネルギー（再エネ）導入拡大に応える AI 技術」 進 博正 氏（株式会社東芝 研究開発センター 知能化システム研究所 システム AI ラボラトリー）</p> <p>講演では、3 名の講演者が、それぞれの専門の立場から、AI 技術を電気事業に応用する際の考え方や手法について、事例を交えながら紹介した。 電力中央研究所の堤氏の講演では、電気事業を取り巻く環境の変化と、AI を含む DX を推進する際のポイント、AI 活用の課題と活用事例について解説して頂いた。 東京電力ホールディングスの中田氏の講演では、東京電力における電力ネットワークの維持・運営に関する課題と AI・IoT を適用した研究開発と活用事例について解説して頂いた。 東芝の進氏の講演では、電力エネルギーシステムのメガトレンド、将来の見通し、再エネ分野へ AI 技術を活用した事例について解説して頂いた。 本講演会の参加者は 360 名で、各講演では、聴講者による質疑も活発に行われ、電力・エネルギー分野への AI 技術の活用、および、IoT を含めた DX 推進の動きに対する関心の高さを伺い知ることができた。</p>
<p>令 3. 9. 16</p>	<p>顕彰 (第 69 回奨励賞第 2 回審査委員会)</p>	<p>学士会館</p>	<p>第 69 回電気科学技術奨励賞第 2 回審査委員会を開催。 出席者：日高邦彦審査委員長、横山明彦審査副委員長、及び、審査委員 20 名中、出席委員 18 名（代理出席含む）。 欠席委員 2 名。 [第一次審査（基礎審査）] 出席委員（委員長、副委員長を除く）が、審査 5 分野（電力・エネルギー</p>

			<p>関係、産業・交通関係、家電・民生機器及びエレクトロニクス関係、情報・通信関係、教育関係)に分かれて第一次審査(基礎審査)を行った。各分野で議論の結果、電気科学技術奨励賞候補として、第二次審査に合計 25 件の受賞候補を推薦することになった。</p> <p>[第二次審査(総合審査)]</p> <p>第一次審査終了後、全審査委員による第二次審査(総合審査)に移った。議論の結果、25 件(69 名)の受賞を決定した。</p> <p>続いて、受賞作の中で最も高い評価を受けた 1 件を文部科学大臣賞に決定し、それに次ぐ評価を受けた 1 件を電気科学技術奨励会会長賞に決定した。決定にあたっては、評価の高い 3 つの候補について決選投票を行い、1 回目の投票で過半数の得票を得た受賞作を文部科学大臣賞に決定した。次に、文部科学大臣賞受賞作を除いた 2 件の候補について 2 回目の投票を行い、過半数の得票を得た受賞作を電気科学技術奨励会会長賞に決定した。</p> <p>なお、文部科学大臣賞には、日本電気株式会社による応募作が選出され、電気科学技術奨励会会長賞には、パナソニック プロダクションエンジニアリング株式会社、パナソニック株式会社共同提出による応募作が選出された。</p> <p>最後に、事務局より、贈呈式を 11 月 24 日に東京神田・学士会館において実施する予定である旨が述べられたが、前回に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮する必要があると、9 月 29 日に開催される理事会で、贈呈式の開催形式、開催規模を決めること、詳細が決まり次第、審査委員にお知らせする旨が告げられた。</p>
<p>令 3. 9. 29</p>	<p>理事会 (第 2 回)</p>	<p>学士会館</p>	<p>令和 3 年度第 2 回(臨時)理事会を開催。</p> <p>出席者：理事総数 14 名中、出席理事 11 名(日高邦彦氏、坪井 裕氏、横山明彦氏、川上景一氏、高本 学氏、富岡義博氏、平栗健二氏、古澤 宏氏、松井利行氏、村上和夫氏、吉野泰宏氏)</p> <p>欠席理事 3 名(梶原滋正氏、寒川哲臣氏、安田一成氏)</p> <p>出席監事 2 名(仲田一元氏、八島恵子氏)</p> <p>理事会議長として横山理事長が議長席につき、本理事会の議決は定足数(理事の過半数)を満たしていることを確認した。議事に先立ち、令和 3 年度第 1 回理事会(令和 3 年 6 月 9 日開催)の議事録を確認した。</p> <p>[議事]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議事項 1 第 69 回電気科学技術奨励賞受賞者決定の承認の件 令和 3 年度の第 69 回電気科学技術奨励賞の受賞者を、去る 9 月 16 日(木)の同賞審査委員会で決定し、本理事会において諮ったところ、全員一致で承認した。 ・審議事項 2 第 69 回電気科学技術奨励賞贈呈式の開催形式の件 事務局から、第 69 回電気科学技術奨励賞の贈呈式は、来たる 11 月 24 日(水) 16 時 30 分より学士会館で開催の予定だが、今年は、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮する必要があること、及び、昨年に比べて受賞者が多いことも考慮に入れる必要があることが述べられた。そこで、本理事会にて、同賞贈呈式の開催日時、開催形式、開催規模等を議論して頂きたい旨が述べられた。 <p>議論の結果、第 69 回電気科学技術奨励賞の贈呈式は、出席(参加)人数を絞り、以下の開催日時、開催形式、開催規模で開催することが決定、承認された。</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・開催日時：令和3年11月24日（水） 15:00～17:00 ・受賞者、代表理事（会長、理事長）、及び事務局が出席する。 ・受賞者に、電気科学技術奨励賞、文部科学大臣賞、電気科学技術奨励会会長賞を授与する。 ・4省庁（文部科学省、総務省、国土交通省、経済産業省資源エネルギー庁）に、贈呈式で代読させて頂くことを前提に、ご祝辞を頂くことを願います。 ・文部科学大臣賞受賞者に（贈呈式にご出席になることを前提として）、受賞作の内容のプレゼンをして頂く。 ・例年、贈呈式終了後に行っている祝賀パーティーは行わない。 ・贈呈式にご出席頂けない方々（受賞者のご家族等）にご覧頂けるよう、贈呈式の模様を簡易な形式でネットワーク配信を行う。 <p>[業務報告]</p> <p>i) 第59回電気科学技術講演会の報告 事務局から、第59回電気科学技術講演会を8月11日（水）、オンライン形式で開催したことを報告。テーマを「AI技術の電力・エネルギー分野への応用」とし、電力・エネルギー分野において、取得した大量のデータから、AI技術を用いて必要な情報を取り出し、活用する手法について、3名の講演者に解説して頂いたこと、及び、インターネットを通じて360名の参加者があり、各講演では質疑も活発に行われたことが報告された。</p> <p>ii) 令和3年度後半～令和4年度の行事日程 事務局から、令和3年度後半～令和4年度の行事日程について報告がなされた。基本的に会議の時間帯を午後の半ばとすることで、会食の費用を抑えるように努めたことが説明され、ご協力をお願いする旨が述べられた。 以上をもって議事を終了した。</p>
令3.11.24	<p>顕彰 (第69回電気科学技術奨励賞贈呈式)</p>	<p>学士会館</p>	<p>第69回 電気科学技術奨励賞贈呈式を開催。 日時：令和3年11月24日（水） 15:00～17:00 場所：学士会館（東京都千代田区神田錦町3-28） 出席者：第69回電気科学技術奨励賞受賞者、及び公益財団法人 電気科学技術奨励会 会長・理事長</p> <p>式典の内容</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 会長式辞 (2) 電気科学技術奨励賞委員会審査報告 (3) 電気科学技術奨励賞贈呈 (4) 文部科学大臣賞贈呈 (5) 電気科学技術奨励会会長賞贈呈 (6) 祝辞 (7) 受賞者総代答辞 (8) 文部科学大臣賞・内容紹介 <p>本奨励賞の贈呈式には例年、受賞者をはじめ、受賞者のご家族、及び多くのご来賓をご招待しているが、今回は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、受賞者と当会会長・理事長のみによる式典となった。</p> <p>贈呈式は、15:00より開始され、当会の日高邦彦会長が式辞を述べ、さらに審査委員会委員長として審査結果の報告を行った。引き続き、受賞者全員に電気科学技術奨励賞の賞状と雷神像の記念楯、副賞（賞金）の贈呈があり、さらに、文部科学大臣賞、電気科学技術奨励会会長賞の贈呈と進んだ。</p>

			<p>各賞の贈呈の後、4省庁（文部科学省研究振興局長、総務省国際戦略局長、国土交通省大臣官房技術総括審議官、経済産業省資源エネルギー庁長官）より賜ったご祝辞を、司会者が代読した</p> <p>その後、全受賞者を代表して、文部科学大臣賞受賞の日本電気株式会社劉健全氏が答辞を読み上げた。続いて、劉氏により、大臣賞受賞作の内容が解説された。</p> <p>文部科学大臣賞受賞作の解説をもって、贈呈式は滞りなく終了した。</p> <p>なお、例年行っている贈呈式終了後の祝賀パーティーは、飲食を伴うことから行わなかった。</p>
令 4. 3. 9	理事会 (第3回)	学士会館	<p>令和3年度第3回理事会を開催。</p> <p>出席者：理事総数14名中、出席理事10名（日高邦彦氏、坪井 裕氏、横山明彦氏、梶原滋正氏、川上景一氏、平栗健二氏、古澤 宏氏、村上和夫氏、吉野泰宏氏、松井利行氏）</p> <p>欠席理事4名（寒川哲臣氏、高本 学氏、富岡義博氏、安田一成氏）</p> <p>出席監事2名（仲田一元氏、八島恵子氏）</p> <p>出席顧問1名（早野敏美氏）</p> <p>理事会議長として、横山理事長が議長席につき、本理事会の議決は定足数（理事の過半数）を満たしていることを確認した。議事に先立ち、令和3年度第2回（臨時）理事会（令和3年9月29日開催）の議事録を確認した。</p> <p>[議事]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議事項1 令和4年度事業計画書（案）の件 事務局から、令和4年度（令和4年4月1日～令和5年3月31日）の事業計画として、主な事業（1. 第70回電気科学技術奨励賞の贈呈、2. 第60回電気科学技術講演会の開催、3. 創設70周年事業、4. 媒体の特長を活かした情報発信、5. 賛助会員・寄附者の維持・拡大による財源の安定確保）について各項目別に説明し審議に入る。 慎重審議の結果、全員異議なく承認した。 ・審議事項2 令和4年度収支予算書（案）の件 事務局から、事業計画に基づく令和4年度収支予算書（案）について、経常収益、経常費用等を勘定科目ごとに詳細に説明する。厳しい経済情勢の中、賛助金・寄附金を主な財源とする当会が経常収益を維持するのは容易ではないが、賛助会員・寄附者の維持・拡大による財源の安定確保に努めることで、令和3年度と同様、総額1,500万円規模の予算を組んだことを説明する。 仲田監事から、同収支予算書（案）の所感を賜った後、審議に入る。 慎重審議の結果、全員異議なく承認した。 ・審議事項3 第70回電気科学技術奨励賞推薦候補募集の件 事務局から、同審議事項の概要を説明する。推薦候補募集の書類を全国の電力会社、電機関連会社、各種団体、研究施設、大学・工業高専等へ送付して周知を図るほか、Webサイトを通じての告知、応募の促進に有効と思われる対象者に向けた電子メール等による情報発信を行うことを説明。 さらに、審査委員会の構成および奨励賞関連の行事日程を説明し審議に入る。 慎重審議の結果、応募規定の誤植の修正を前提に、原案が承認された。 ・審議事項4 第60回電気科学技術講演会の開催の件 事務局から、第60回電気科学技術講演会を、以下の内容で実施することが提案された。

		<p>[提案内容]</p> <p>○令和3年度の第59回電気科学技術講演会に引き続き、東京大学工学系研究科電気系工学専攻 先端電力エネルギー・環境技術教育研究アライアンス (APET) との共催で実施する。</p> <p>○夏季 (7~8月) の開催で検討する。</p> <p>○東京大学工学部内の施設を会場とし、来場者は250名前後を想定する。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大のリスクが緩和せず、対面形式での開催が難しい場合、オンライン形式での開催も視野に入れ、令和4年度中の開催を目指す。</p> <p>○以下のテーマで検討する。 「交通・輸送分野におけるカーボンニュートラル (水素・燃料電池の活用)」 「自動車・鉄道におけるカーボンニュートラル (水素・燃料電池の活用)」 等</p> <p>○講師 (講演者) は、最大3名で検討する (官庁・メーカー・各種法人等、組織のバランスに配慮する)。</p> <p>○講演時間は、最大150分 (2時間半) とする。</p> <p>○奨励会の予算から、1人当たり20,000~30,000円の謝礼を支払う。 慎重審議の結果、ハイブリッド形式での開催も視野に入れること、最初の講演に全体論を入れる方向で、提案内容が承認された。</p> <p>[業務報告]</p> <p>i) 役員等の改選スケジュールについて 事務局から、今年度 (令和3年度) で当会の役員等の多数 (理事全員) が任期満了となるため、改選 (選任) の手続きが必要になる旨を報告。次年度 (令和4年度) の役員等の改選スケジュールおよび必要な手続きを説明。 役員等の改選 (選任) については、5月23日 (月) 開催予定の役員等選出委員会で審議されるので、任期満了となる役員等は、審議のために必要な書類を期日までに事務局に提出することが確認された。</p> <p>ii) 代表理事・業務執行理事の職務の執行状況の報告 令和3年6月~令和4年2月の執行状況について報告。併せて、代表理事、業務執行理事、事務局長の意見交換が随時行われていることを報告した。 以上をもって議事を終了した。</p>
--	--	--

以 上